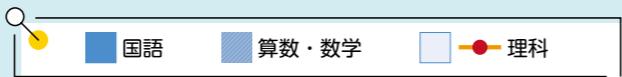
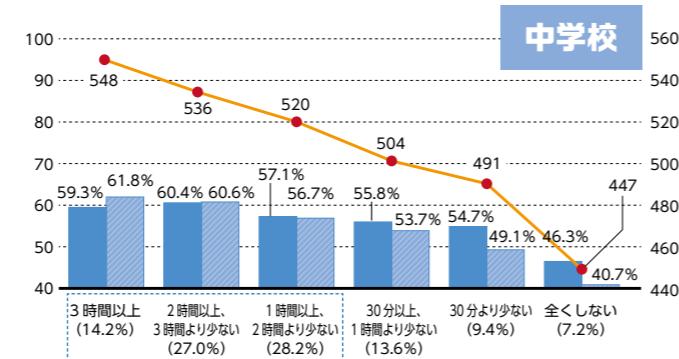
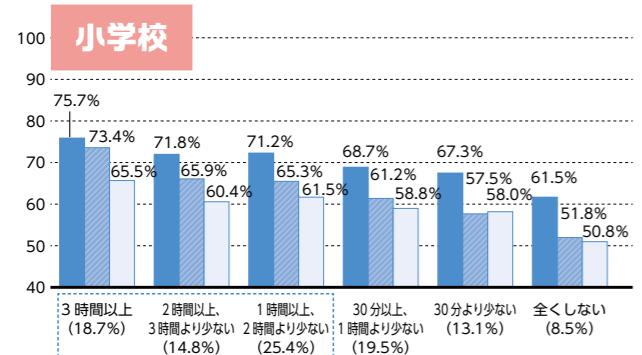


学習状況調査

各質問に対する吹田市の結果です。



学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか
(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して
学ぶ時間も含む)。

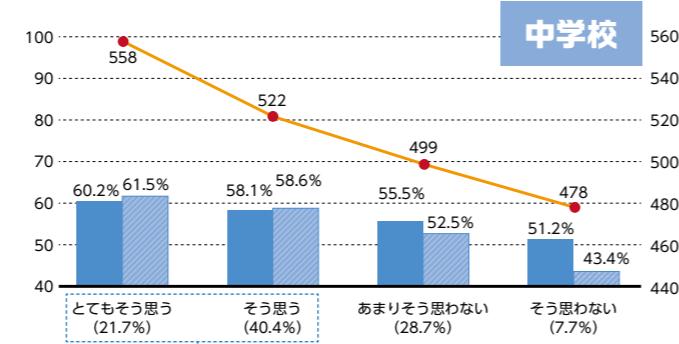
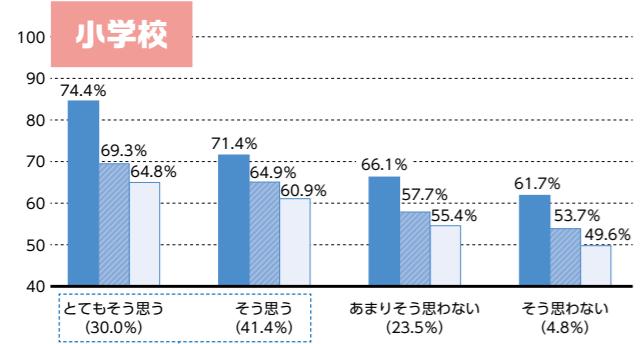


1時間以上の時間を回答した割合は、小学校58.9%、中学校69.4%でした。一方で、「30分より少ない」「全くしない」と回答した割合は小学校21.6%、中学校16.6%となっています。ふだんの勉強時間が短い児童・生徒ほど、各教科の平均正答率が低くなる傾向が見られ、特に算数・数学、理科では大きな差が見されました。

月～金曜日の学校外での学習方法や時間の使い方などについて、学校・家庭・地域で連携して支援を行っていきます。



あなたは自分がPCやタブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思いますか。



「とてもそう思う」「そう思う」という肯定的な回答率は、小学校71.4%、中学校62.1%でした。肯定的な回答をした児童・生徒の各教科の平均正答率は、「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した児童・生徒に比べ、総じて高い傾向が見られました。

市では「図や表、グラフ、短い文章、会話文などの内容を関連付けて、それを基に論理的に考えたり、自分の考えをまとめ、伝えたりすること」を学習課題として挙げています。児童・生徒がICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ができるよう、授業での活用をより積極的に行い、課題解決を図っていきます。

令和7年度

全国学力・学習 状況調査



市ホームページ

未来に向かって

吹田の 教育のいま

間教育総務室(朝日町西6155・8063
FAX6155・8077)

No.21

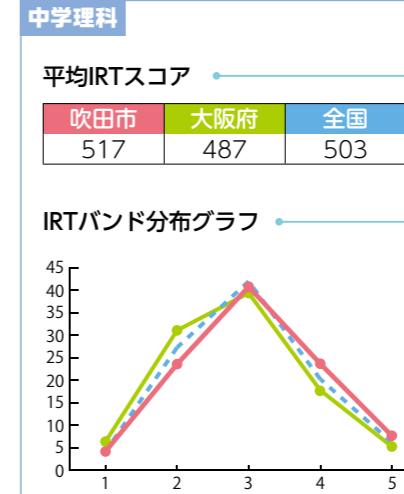
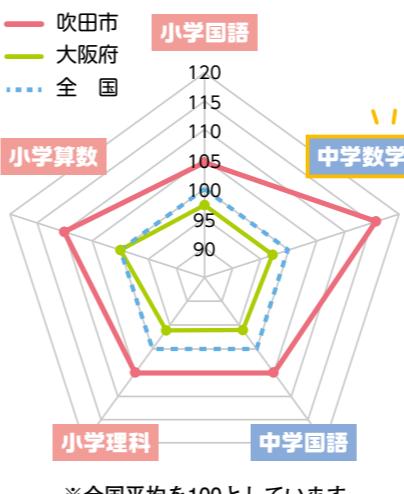


国語、算数・数学に加え、3年に一度の頻度で英語と理科も実施。今年度から、中学理科は生徒が活用するICT端末などのコンピューターを使った試験(CBT方式)に変更となりました。今後、段階的に小学校も含めすべての教科でCBT方式が導入される予定です。

学力調査

教科別正答率の全国比

小中学校ともに、すべての教科で大阪府平均、全国平均を上回りました。
特に、中学数学は顕著に高い結果となりました。



中学理科では、従来の素点方式(正答数・正答率)ではなく、新たにIRT方式を導入。IRT方式では、生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、学力スコアを推定することができます。

IRTスコア
各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表したもの。

IRTバンド
IRTスコアを1～5の5段階に区分したもの。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。なお、個人に返却される結果も、IRTバンドで表示されています。

学習指導要領の 領域別正答率の全国比

※いずれのグラフも、大阪府、全国は公立の平均

